



ドリラス

富山県

NO.37 2005年10月

中央植物園だより



クニフォフィア *Kniphofia* 南アフリカを中心に70種ほどが分布する多年草。広義のユリ科に分類され、アロエなどに近縁。園芸的には、古い属名であるトリトマ (*Tritoma*) と呼ばれることが多い。根もとから細長い葉を出し、長い花茎の先に筒状の小さな花をたくさんつける。代表的な種はクニフォフィア・ウバリア (*K. uvaria*) で、「レッド・ホット・ポーカー (赤く焼けた火かき棒)」の英名があり、花はつぼみの頃は赤く、開花すると黄色に変わる。このウバリアを中心にいくつかの種が交雑されていろいろな園芸品種が作られており、丈夫で育てやすいので日本でもよく栽培される。

撮影／多宮恵理子さん (平成17年度私の植物写真展応募作品)

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

園内でみられる 木の実のいろいろ

秋になると、園内の木々は色とりどりの実をつけます。

ガマズミの果実は、若いうちは葉と同じ目立たない色をしています。中の種子が成熟するといっせいにあざやかな赤に色づきます。すると、鳥などがこれを見つけて食べにやって来ます。このとき、種子も一緒に飲み込まれますが、種子にはかたい殻があるので消化されずに糞といっしょに外に出され、やがてそこで発芽します。ゴズイでは、赤い果実が割れて中からつやのある黒い種子が顔を出します。赤と黒という2色のコントラストは、鳥に見つかりやすくするための工夫と考えられています。

コナラやミズナラのドングリは、カケスやネズミな

どに運ばれて地中に貯蔵されます。ドングリの場合は種子そのものが食べられてしまうのですが、食べ忘れたり食べ残された種子が発芽することで、分布を広げているようです。

風を利用して種子を散布する樹木もあります。カエデ類の果実はプロペラのような翼を持っていて、くると回転しながら風に飛ばされていきます。

さて、こうした木の実は人間によってもさまざまに利用されてきました。ガマズミやアキグミの果実は甘酸っぱくて食用になり、果実酒もつくられます。サンシュユやセンダンの果実は生薬として、クチナシの果実は「きんとん」などを染める食用の色素として利用されます。クサギの果実は青色の染料になります。



イヌビワ *Ficus erecta* (クワ科)
「シイ・カシの森」



クロガネモチ *Ilex rotunda* (モチノキ科)
「シイ・カシの森」



コナラ *Quercus serrata* (ブナ科)
「クリ・コナラの森」



ガマズミ *Viburnum dilatatum*
(スイカズラ科) 「クリ・コナラの森」



クサギ *Clerodendrum trichotomum*
(クマツヅラ科) 「クリ・コナラの森」



ムラサキシキブ *Callicarpa japonica*
(クマツヅラ科) 「クリ・コナラの森」



ゴズイ *Euscaphis japonica*
(ミツバウツギ科) 「クリ・コナラの森」



ウリハダカエデ *Acer rufinerve*
(カエデ科) 「ブナ・ミズナラの森」



アキグミ *Elaeagnus umbellata* (グミ科)
「河原の植物」



クチナシ *Gardenia jasminoides*
(アカネ科) 「染めの植物」



サンシュユ *Cornus officinalis*
(ミズキ科) 「つつじ・シャクナゲ園」周辺



センダン *Melia azedarach* (センダン科)
「芝生広場」

研究紹介◎絶滅危惧種オオユリワサビの出現する群落

主任研究員 山下 寿之

アブラナ科のオオユリワサビ(写真1)は、タイプ産地(最初に発見された場所)である福岡県沖ノ島で絶滅し、環境省のレッドリストにも「絶滅種」として掲載されています。ところが、富山大学理学部の鳴橋直弘教授らが2000年に氷見市で発見し、「植物地理・分類研究」に公表されてから日本海側の各地で発見・報告されるようになりました。県版レッドリストの公表後に発見されたところもあり、現在オオユリワサビを絶滅危惧種として指定しているのは、富山・福井・長野・秋田の4県です。

オオユリワサビは秋から翌春まで地上部を展開、開花結実に至る生活史をたどることから、一般に群落調査が行われる夏から秋にかけては鱗莖(りんけい)の状態であり、どのような群落に生育するかという情報はこれまでほとんどありませんでした。絶滅危惧種を保全するためにどのような生態系を維持すればよいのかを知るうえで、群落の構成種や立地環境を調べるのが重要です。

平成16年春に開催された野外観察会で、中央植物園友の会会員の中川定一氏をはじめとする地元の方々により、オオユリワサビの群生地を案内していただきました。調査地は県内で唯一の産地である氷見市の宇波川上流部の河岸段丘面で、晩春と翌年初夏の2回植生調査を行いました。昨年の5月下旬にはすでにオオユリワサビは見られず、群落高は2.5mに及び、草本第1層はオオハナウドが優占し、第2層はクサソテツ、チマキザサが優占する群落でした(写真2)。それに対して同じ場所で今年5月上旬のオオユリワサビの開花期には他の植物の展葉中で、群落高も1.5m以下で低く、草本第1層はチマキザサが優占し、第2層はクサソテツ、オオユリワサビが優占する群落



写真1. オオユリワサビ *Eutrema okinosimensis*

でした(写真3)。現在も周辺の溪谷斜面下部などに調査区を増やし、調査を継続しています。

現在発行されている植生図のスケールではこのような群落は面積が狭く表されず、周辺に分布するサワグルミー・ジュウモンジシダ群集、あるいはケヤキ・チャボガヤ群集にまとめられてしまいます。しかし、対象とした小面積の植分はチマキザサやクサソテツが優占する溪畔の高茎草本群落として位置付けられ、オオユリワサビなどの春植物は季節により欠落するので、春植物が優占する群落をどのように評価すべきかが今後の課題となります。



写真2. オオユリワサビ群生地の植生-5月下旬



写真3. オオユリワサビ群生地の植生-5月上旬

植物園トピックス

■バンブーシンフォニアの世界

昨年に続いて2回目となるドリアスコンサートが、9月10日に園内のサンライツホールで開かれました。今回の出演は、「竹の音楽家OZAN」こと柴田旺山氏が率いる「バンブーシンフォニア」。竹楽器のみを使って演奏するグループで、特別展「竹」に合わせて招かれました。尺八や篠笛のほか、竹マリンバ、クロンプットなどの打楽器を駆使して、「花」「島唄」などの名曲からベトナム民謡「美しい竹」、富山民謡「こきりこ」、オリジナル曲「竹夢-Bamboom」など約20曲を披露。竹楽器=原始的な楽器という印象をま



ったく感じさせない安定した技巧と、竹林を吹き抜ける風を思わせるさわやかな音色で、約180人の聴衆を魅了しました。会場から選ばれた小・中学生が演奏に参加する場面もあり、とても楽しいコンサートでした。

■日本植物学会賞〈特別賞〉を受賞

富山県中央植物園ならびに内村悦三園長が(社)日本植物学会の特別賞を受賞し、9月22日に同学会第69回大会(富山大学)で表彰を受けました。植物園が進めてきた植物科学の教育・普及活動と、内村園長が長年にわたって取り組んできた「タケの生理・生態学に関する研究」が評価されたものです。

なお、同日午後には同学会会員による植物園の見学会が行われ、56人の会員が園内や標本庫などを見学しました。

授賞式で表彰を受ける内村園長(左)



これからが見ごろの植物

モラードバナナ

Musa acuminata 'Morado Banana'

よく食べられているバナナの果実は成熟とともに緑色から黄色に変わりますが、このモラードバナナは茶褐色から赤紫色に変わります。また、葉柄も赤味を帯びているので、実がついていなくても他のバナナと区別できます。主にエクアドルやフィリピンで生産されており、甘さの中にほのかな酸味があって味も優れているので、原地では通常のバナナより高級品とされています。日本ではほとんど流通しておらず、果物の専門店などで見られる程度です。

(主任 兼本 正)



催し物のご案内

■サンライトホール展示

特別展「園芸菊と野生菊」
10月21日(金)～11月16日(水)



企画展「干支にちなんだ植物展」
12月9日(金)～2月1日(水)

企画展「平成17年度 研究発表展」
2月3日(金)～3月1日(水)

■観覧会・講座・講習会

講演会「野生菊の種類と栽培」
10月30日(日) 13:00～15:00
場所／研修室 参加費／無料

県民カレッジ連携講座
植物染め講習会 ◆要申込
11月20日(日) 10:00～16:00
場所／実習室
定員／24名 参加費／無料

電子顕微鏡で
植物を観察しよう ◆要申込
1月15日(日) 13:00～16:00
場所／実習室ほか
定員／12名 参加費／無料

デジカメ講座

花を撮ろう ◆要申込

2月4日(土) 10:00～15:30

場所／園内・富山県ITセンター

定員／16組 参加費／無料

※この行事の申込方法は、富山県ITセンター情報工房施設(TEL 076-444-7887)までお問合せください。

平成17年度研究発表会

2月5日(日) 13:00～16:00

場所／研修室 参加費／無料

■月例行事

日曜植物案内

11月6日(日)・12月4日(日)・

1月8日(日)・2月5日(日)

11:00～12:00

集合場所／サンライトホール

参加費／入園料が必要

◆要申込 このマークの講座・講習は事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

植物園であそぼう！

文部科学省がすすめる“地域子ども教室推進事業”の一環として、植物園では小・中学生を対象にしたイベントを開催しています。

■11月～2月中旬のスケジュール

ドングリを育てよう

11月3日(木・祝) 13:00～14:00

落ち葉で遊ぼう

11月12日(土) 10:00～11:00

植物バイオの実験

11月13日(日) 13:00～14:00

落ち葉で遊ぼう

11月19日(土) 10:00～11:00

11月20日(日) 13:00～14:00

草木染め

11月23日(水・祝) 13:00～14:00

11月26日(土) 10:00～11:00

11月27日(日) 13:00～14:00

クリスマス飾りを作ろう

12月17日(土) 10:00～11:00

12月18日(日) 13:00～14:00

12月23日(金・祝) 13:00～14:00

植物バイオの実験

12月25日(日) 13:00～14:00

顕微鏡で植物を観察しよう

1月9日(月・祝) 13:00～14:00

電子顕微鏡で植物を観察しよう

1月21日(土) 10:00～11:00

1月22日(日) 13:00～14:00

雪の植物園を探検しよう

1月28日(土) 10:00～11:00

1月29日(日) 13:00～14:00

デジカメでランを撮ろう

2月11日(土・祝) 10:00～11:00

2月12日(日) 13:00～14:00

2月18日(土) 10:00～11:00

2月19日(日) 13:00～14:00

■対象 小学生、中学生(ご兄弟、親子でも参加できます)

■申込 各イベントの開催1週間前までにお電話で申し込みください。

■問合せ・申込先 富山県中央植物園
TEL 076-466-4187

友の会会員募集中！

■特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。／会報や植物園だよりが送られてきます。／多彩な友の会の行事に参加できます。／印刷物を割引で購入できます。

■会費 年額3,000円。5月以降、新規に加入される方は初年度会費の割引を受けられます。

■入会方法 植物園の入園窓口で随時受け付けています。

■有効期間 ご入会の日から翌年の3月31日まで。

■問合せ先 富山県中央植物園友の会事務局 TEL 076-466-4187

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00 (入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下無料

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ経由菟の島循環」に乗車し「中央植物園口」停留所下車、徒歩約8分／富山市中心部より車で約15分／北陸自動車道富山インターより車で約15分／JR速星駅より車で約8分